

と話していました。またこの地域は県内で唯一人口が増加している新興エリア。患者の需要も高く、将来性を見越して開業したのでしょう（矢口さんの知人）

独自の資産家として知られた矢口さんは、東京・板橋区に投資マンションを所有している他、株取引など資産運用に熱心だった。

「先生が最後に店にやってきたのは事件の十日前。六月二日のさくらんぼマラソン大会に出場するといひ、その日は猫ひろしさんのマラソンコーチを招き、決起集会」を開いていました（市内の居酒屋店員）

何の罪もない女医の命を奪った加藤とは、どのような経歴の持ち主なのか。九年、加藤は新潟大学医学部を卒業した脳神経外科医である父と専業主婦の母との間に生まれた。小学校から高校までを過ごした新潟県長岡市内のマンションの住民が振り返る。

加したり、近所の小学校で読み聞かせをやっていました。あるとき（山菜の）こころみを渡してあげたところ、お返しに『うちの主人、お酒飲まないから』って、高いウィスキーの瓶を持ってきてくれたね」

「加藤くんは自分から話しかけるタイプではないけれど、話しかけたら笑顔で応じてくれるので、紳士加藤」というあだ名で呼ばれていた。教室では一人で本を読んでいることが多く、ヤンチャな連中が騒ぐと、露骨にむっとした表情をすることもあった。成績はクラスでトップで『父親のような医者になりたい』と語っていましたね。卓球部のエースで県大会に出場するほどの腕前でした」

消えない報告書

「マンガが屋台骨の講談社は、『漫画村』をはじめとする海賊版サイト問題で政府に法規制を求める旗振り役を担い、野間省伸社長も積極的に発信してきました。この分野で頼りになる大物議員と言えは甘利氏。自民党知的財産戦略調査会の会長ですからね。昨秋にはうちから甘利氏の政策提言本を出版していますが、これはまさに同調査会の議論をまとめたもの。甘利氏側が



わたしたちの時代がやってくる！権利平等、文化共生。みんなはどんな世の中にしたい？！

出せないか」と打診され、飛びついたようです。別の社員は、そもそも甘利氏と講談社は別の、なかよし、だと語る。

「参院選を間近に控え、側は当初、『選挙に行こう』という内容になると聞いていました。撮影は五月下旬でしたが、スタジオで自民党マーク入りTシャツを広告代理店から手渡され、初めて内容を知った人もいたほどです。Tシャツのプリントの応募に際し、自民党2019」というタグを付けてSNSに投稿することも知らされていなかった。『だまし討ちだ』と憤っている社員も。また、担当役員は『週刊現代』の編集長を務めるなど報道に長く携わる人物で、今もニュース系雑誌も統括しているだけに冷やかな視線を送る社

員も多い。広告料は四百万円だったそうです（同前）

「件」の広告は党の広報と関係なく、甘利氏が進めたものです。党の広告・宣伝は基本的に電通が担っていますが、これは新興のSTARBASE（以下S社）にお願いしている。人気ゲーム『ファイナルファンタジイ』のイラストレーター・天野喜孝氏を起用した安倍首相風の侍のイラストなど、『自民党2019』計画も同社が担当。S社関係者は頻りに党本部に出入りしており、甘利氏が最近ツイッターを始め、芸人ヒロシの物真似を披露しているのもS社の指南だとか

一度の頻度で訪れては騒ぎ、店員を困らせたという。「初めて来たのは二年ほど前。『生え際の白髪を染めたんやけど、いいのがある？』と。最初は人懐っこい人やなあとと思ったけど、すぐに『白髪染めが肌に合わんかった』、『試供品が服について』と、何かとイチャモンをつけてくるように。一番ひどいのは電話でのクレーム。直接話す時は優しい口調で『彼女、会いに来てるねん』などと身の上話をしたりもするけど、電話になると何を言ってるか分からんくらい激昂して『どうしてくれんねん！』を連発する」（同前）

現場となったアパート

Vivi炎上の裏に 甘利明と講談社のなかよし

「わたしたちの時代がやってくる！権利平等、動物保護、文化共生。みんなはどんな世の中にしたい？」

「Vivi」ウェブ版に掲載された自民党の広告記事が「政党的宣伝をするのか」「Tシャツより年金がほしい」などと炎上。裏には、甘利明選挙対策委員長（69）と講談社の知られざる蜜月があった。

講談社社員が明かす。「これを取ってきたのは広告担当の中堅社員A氏（四十代）です。仕事はできるが細かいことは気にしないタイプ。実はA氏は以前から甘利氏側と交流があり、食事をともにする間柄。今回は先方から『党の広告を

「中退の理由は、同級生からのいじめでした。さらに両親と進路で揉め、担任の先生とも折り合いが付かなかったと聞きました。その後、彼は地元へ寄り付かなくなり、クラスの同窓会にも顔をきかなくなりました。幹事が誘っても『行きたくない』と完全拒否。そこから地元とは縁を切ったままです」（別の同級生）

通信制高校を経て、山形大学文学部に入学したのは一五年四月のこと。十五、十八世紀の中国近世社会史について学んでおり、小説家志望者が集まる文芸部に所属した。

現金授受疑惑は未だに説明なし

京都向日市殺人 前科十犯男が市役所員を共犯にした猛クレーム

「試供品のオーテコロンが服について匂いが取れへん。洗濯しても取れへん。彼女が『匂いきつい嫌や』言うて喧嘩になった。どうしてくれんねん！」

女性の遺体を白いガムテープでグルグル巻きにし、遺棄した疑いで逮捕された京都府向日市の橋本貴彦容疑者（55）。彼は近隣の大型スーパーで「たちの悪いクレーム」(スーパー関係者)として知られていた。月に

橋本と共に死体遺棄容疑で逮捕されたのが、向日市職員、余根田渉容疑者



現場となったアパート